

情報通信月間参加行事 実施報告書

行事ID	C012	行 事 名	ネットの安心・安全シンポジウム			
行事形式	シンポジウム	主催団体	(一財)マルチメディア振興センター			
開催日	2023年8月25日		開催場所	オンライン開催		
行 事 参加者数	83名		Webサイト URL	https://www.fmmc.or.jp/activities/kenkyukai/shinposium/		
行事実施概要・アピール等						
<p>今回のシンポジウムでは、ICTスキルを高める取組みや、安全に使うための取組みの先行事例を紹介しました。ユースケースを踏まえて、GIGAスクールの実現に向けて、優先的に取り組むべき課題と効果的・積極的な利活用の可能性についての議論を行いました。また、今回のシンポジウムに参加して頂いた有識者は、次のとおりです。</p> <p>(コーディネータ)</p> <p>竹内 和雄：兵庫県立大学 環境人間学部 教授 (パネリスト順不同、敬称略)</p> <p>赤間 圭祐：総務省情報流通行政局 情報流通振興課 情報活用支援室 室長</p> <p>佐野 竜也：尼崎市教育委員会事務局 学校教育部 いじめ防止生徒指導担当 主事</p> <p>佐和 伸明：千葉県柏市立大津ヶ丘第一小学校 校長</p> <p>大塚 輝：株式会社内田洋行 システムズエンジニアリング事業部 ネットワークサポートセンター センタラルサポート課 課長</p> <p>なお、本行事に関しては、当初は7月下旬に開催する予定で企画していましたが、参加者の日程の調整が整わず、6月下旬に8月下旬に繰り下げる開催することを決定しました。</p> <p>シンポジウム実施後のアンケート結果によると、「内容のわかりやすさ」に関しては、約90%の参加者が「わかりやすかった」と回答し、「内容の有益性」に関しては、約80%の参加者が「有益であった」と回答した。</p>						

インターネット上の偽・誤情報等の流通の顕在化

- 多くのインターネット利用者が情報を収集・閲覧するプラットフォームサービス等のインターネット上に流通する情報には、誹謗中傷や偽・誤情報も含まれるなどの問題も顕在化※。
※ 一因として、偽情報は、SNSにおいて正しい情報よりも早く、より広く拡散する特徴があることが指摘されている。
- ◆ インターネット上の偽・誤情報への接触頻度
 - ・インターネット上のメディアにおいては、50%弱が月に数回以上、約30%が毎月1回以上接触。
 - ・まとめサイトにおいては、約60%が月に数回以上、約40%が週に1回以上接触。
 問) 最近1ヶ月の間で、あなたは次のメディアの中でどのくらいの頻度でファイニュースを見かけますか。
※ここでは、偽偽又は説解・説得と考えられる情報ニーズを指します。

インターネット上のメディア(SNSやブログなど)	令和3年度	19.3	20.0	20.2	20.7
まとめサイト	令和3年度	39.5	22.3	22.3	3.6

 出典：「国内外における偽情報に関する意識調査」(総務省)

- ◆ インターネット上の偽・誤情報の拡散事例
 - ・ワクチン不妊・誤情報拡散 29のSNS投稿が5万件転載
新型コロナウイルスワクチンを否定する投稿がSNSで広がっている。日本経済新聞の調べでは、ワクチンが不妊につながるというTwitter上への投稿が1月から7ヶ月間で約11万件あり、その半数の5万件超がわずか29アカウントの投稿が発端だった。
 - ・ウクライナ侵攻「ワリ」氾濫 SNSで拡散 日本でも
ロシアによるウクライナ侵攻を巡り、ウソや真偽不明の情報が、日本国内のSNSユーザーの間にも広がっている。
 日本経済新聞(令和3年8月9日)
 選先新聞(令和4年3月19日)
- ◆ 違法・有害情報相談センターへの相談件数の推移

月	件数
1月	1,232
2月	1,565
3月	2,000
4月	2,667
5月	3,600
6月	5,200
7月	5,712
8月	5,718
9月	5,798
10月	5,847
11月	5,922
12月	6,322

 出典：「静岡県における違法・有害情報相談センターの運営状況」(静岡県)

